



●新年を迎えて


長野県議会議員 宮本 隼司

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。
 昨年を振り返ってみますと、大河ドラマ「真田丸」のテレビ放映や諏訪大社御柱、飯田お練り祭、「第一回『山の日』記念全国大会」、「G7長野県・軽井沢交通大臣会合」等々、大きなイベント開催で県全体が賑わった年でした。また、「第六十七回全国植樹祭」の前日には、飯山市文化交流館「なちゅら」にて「第四十五回全国林業後継者大会」が開催され、その際、天皇皇后両陛下には新幹線飯山駅にお立ち寄り頂き、地元としてこの上ない慶びでありました。
 昨年十一月十九・二十日と飯山線には、四十四年ぶりにSLが走行し、全国から「鉄道マニア」がこの地を訪れ、大いに盛り上がったことは記憶に新しいことです。今年はJRグループや観光関係者、市町村が連携し「信州デスティネーションキャンペーン」が実施されます。この地域には豊かな自然や歴史、文化が無尽蔵にあります。これらを最大限に活用し、その魅力を県内外に発信できるよう更なる努力が必要です。
 新年度より県の現地機関である「地方事務所」が「地域振興局」となります。これまで以上に市町村との関係を密にし、地域課題に取り組んでいけるような体制の強化が計られなければなりません。また、長野県の総合五ヶ年計画「しあわせ信州創造プラン」が最終年度となります。今までの実績を踏まえ、更なる発展を推進するために「次期総合五ヶ年計画」を策定する中、県議会でも研究会を立ち上げ様々な提言をして参る所存です。
 それぞれの分野で課題は山積しておりますが、北信州・長野県発展のために、今年も微力ではありますが力を尽くして参りたいと思います。本年が大きな厄災もなく、つつがない平穏な一年となりますよう心より願い、新年のご挨拶といたします。

平成28年11月定例会一般質問から

◎豪雪地における建設産業の育成について

Q. 災害発生時には、地元の建設業者の力が必要になると考えるが、建設業者の技術力・機動力を平時より如何に確保しておくのか？

A.  小規模な災害に対しては、道路施設をJV企業などで、また、その他の土木施設では当番企業がそれぞれ対応することとしている。また大規模な災害に対しては、建設業協会など各種団体との協定に基づき対応する。こうした体制の維持には、企業の経営安定、労働環境の整備が不可欠であり、県民の安全・安心の確保に向け、災害時に建設企業の力が十分発揮できるよう、建設産業の育成と連携強化を図っていく。

Q. 豪雪地帯においては、発注工事は出来るだけ当該年度中に終わることが望ましいと考えるが、その方策について新たな発注方法を含めて検討を加えることが必要と考えるか如何か。

A. (建設部長) 工事の発注については、豪雪地帯では、冬期の施工が困難なため、年度早期の発注が強く求められている。昨年度から、年度当初の施工が可能ならゼロ県債の対象工事の拡大を図っているが、今年度、新たに、その対象を交付金事業まで拡大すべく、本定例会に予算案をお願いしている。こうした取組により、豪雪地帯においても、早期の工事着手を図っていく。

Q. 建設事務所の草刈専用車の充実について

Q. 維持修繕事業への予算措置について

Q. 自然環境の厳しい地域の建設産業が持続的に発展するためには、発注工事の平準化対策が必要。豪雪地帯における予算措置について、債務負担行為設定の考え方も含めて所見を。

A. (建設部長) 工事の発注に際しては、その規模や内容、現地の自然的・社会的条件等に応じて工期を適切に設定するよう努めている。工期が年度内に確保できない事業箇所については、債務負担行為を予算化しており、北信建設事務所でも、昨年度後半の発注工事45件のうち、31件で債務負担行為を活用している。県の北部地域など、積雪の影響により工事可能期間が短い地域においては、早期契約制度やゼロ県債の活用により、適切な時期の発注に努めるとともに、必要に応じ債務負担行為を活用し、適切な工期を確保してまいりたい。




11/24 柴村長他、建設部長へ要望


◎信州学と地域創生について

Q. 今年度から全県立高校で取り組まれている「信州学」とはどのようなものか、また、各県立高校における取組状況は如何か。

Q. 県民への「信州学」の周知、普及、及び各高等学校と市町村との連携をどの様に進めて行くのか。

A.  信州学は、学校の中だけで完結するものではなく、地域をまきこみ、地域の活性化にもつながる可能性を持っていると考えている。今後、全県的な推進委員会を設置し、企業や社会教育施設、大学などとも連携し、各校の取組を地域と共有していきたい。また、テキストをデジタル化するなどして、高校以外への普及も図ってまいりたい。取組を紹介、周知する中で、学校と市町村の連携が広がるように努めてまいりたい。

Q. 学校の小規模化や統廃合などが多くの市町村にとって課題となっており、先日開催された「県と市町村との総合教育懇談会」では「中山間地域の子どもたちの学び」をテーマに意見交換会を行ったとのことだが、総合教育懇談会の議論をどう活かし、このような課題にどのように取り組んでいくのか。

A.  長野県の将来を考えたとき、県内及び中山間地域の未来をどう描いていくかということが極めて重要だと考えている。今回、感じたことは、小中一貫、あるいは幼保あるいは高校までを視野に入れての、子どもの立場にたった一貫的な目線で行政が関わっていくことの重要性、地域の特色や個性を生かした教育の重要性、そうした取組に地域の住民を巻き込んでいくということの重要性である。さらには、地域振興全体を考える中で、学校のあり方を位置づけていくことが重要だ。また、学校という場自体が、学びの場であると同時に地域コミュニティの核としていく必要があると考えており、様々なご提案等いただいた。今後、4者でプロジェクトチームの設置をしていく。12月中には立ち上げ、具体的な議論を行って成果に結びつけていきたい。この懇談会、今後も定期的に開催する中で、他のテーマについても議論を深めていきたいと思っている。また、今後、総合5ヶ年計画、教育振興基本計画の策定も予定されている。県と市町村、首長と教育委員会、教育長が問題意識を共有し、出てきた方向性については、こうした大きな計画の中にも位置づけていきたいと考えている。

Q. 新県立大学の大学説明会では、保護者・生徒達からはどのような質問・意見があったのか。

Q. 県立大学におけるカリキュラム「象山学」と信州学の関わりについて

活動あれこれ



9/1 就労継続支援A型事業所 (株)フジすまいるファーム飯山入社式 (旧岡山小学校)



9/11 菜の花の種まき



9/17 福島新田畑の稲刈り



10/1 柴村 村制施行60周年記念式典



10/12 園芸振興議員連盟視察 梨元農園にて



10/14 第25回全国消防操法大会 (長野オリンピックスタジアム)



10/21 国道117号バイパス 豊田飯山IC~替佐間開通式



11/3 下高井 農林高等学校 110周年記念式典



10/13 2016酒メッセin長野



11/15 県道飯山 野沢温泉線 戸那子バイパス 開通式